



昭和61年10月24日
群馬県立太田工業高等学校
同窓会
0276(45)4742

同窓会々員の皆様へ

会長 林進一

会員の皆様お元気で御活躍されている事と御推察申し上げます。本年の第22回の卒業生を向かい入れ、同窓会員数は待望の六千名を越え六千二名となりました。過日の常任幹事会で承認され、第三号の同窓会名簿を62年度に発行する準備を進めています。詳細につきましては、次頁を御参照下さい。話は変わりますが、私が結婚して15年になります。先日読んだ本の中にこんな事が書いてあり、私も反省させられました。特に未婚の同窓会員に送りたいと思います。「お世辞が上手に言えるようになるまでは、決して結婚してはならない。独身の間は、女性をほめようとはめまいと自由だが、いったん結婚してとなると、相手をほめることが必須条件となる。これは自己の安全のためにも不可欠である。率直なものと言いかたは禁物

だ。結婚生活は、外交の場である。満足した日々を送りたければ、決して妻の家事のやり方を非難したり、意地悪く自分の母親のやり方と比較したりなどすべきではない。逆に、いつも妻の家事の切り盛りをほめたたえ、才色兼備の理想の女性と結婚できたしあわせを喜ぶようにすべきだ。焼肉が革ほどに堅く、トーストが消し炭ほどに焦げていても、決して不平を言ってはならない。今日はいつもほどよくできてないねと、軽く言う程度にしておく。妻は、良人の期待にこたえようと、身を粉にして働かだろ。既婚男性が、この方法をいきなり始めるのは考えものだ。妻が変に思うだろう。未婚男性には、参考まで。同窓会員の皆さまには、今後共同窓会及び母校発展の為、御指導御協力をお願い致します。

技術革新に思う

校長 栗野 昭

同窓会会員の皆様には日頃より母校発展のために格別のご尽力をいただきまして深く感謝申し上げます。

母校も昭和三十七年四月に第一回生が入学してから早いもので、二十五年目を迎えました。その間に我が国の経済も幾多の変化を迎え、また、困難をのり越えて伸展してきました。

本校が創立された昭和三十年代後半は、戦後の経済復興が順調に進み工業発展の基礎が出来上り、国民総生産高の飛躍的な成長がなされた時代でありました。

その後、約十年続いた年平均十%を越える高度成長時代、オイルショック、低成長時代と変化はありましたが今やGNPが世界の一割という経済力のある国に発展して参りました。

工業教育もこのような社会・経済の変化に伴い、また産業技術の進歩と新しい職業分野の発展に対応して、充実と改善がおこなわれて参りました。

本校に於てもその都度、教育計画と教育内容の改善で対応して参

りました。しかし、近年における工業技術の進展は目を見張るものがあり、それは新しい産業革命であるとも言われています。

この技術革新は何かというと、その答えは極めて難しいが、それは「エレクトロニクス技術であり、新素材開発技術であり、新エネルギー開発技術であり、バイオテクノロジー技術である」とそれらの総合開発技術であると考えます。

このような技術革新に対応する教育を考えますと、単なる教育内容の手直しでは対応しきれなくなつて参りました。

それで技術革新の時代にふさわしい新学科を設けて、その学科を中心として、既設の学科の改善をおこない新しい時代に対応する教育内容へと変換をはかりたいと考えています。

しかしどのように技術の進歩をみても、工業教育を考えると、基礎基本が最も重要であり、このことなくしては成り立たないと考えています。

本校が発展する機が熟して参りました。同窓生の皆様の一層のご協力をお願い申し上げます。



同窓会名簿出版について

書記 天ヶ谷 勉

本校同窓会も創立以来二十一年目を迎え、会員数も約六〇〇〇名を数える規模となっております。

さて同窓会の最も重要な事業の一つであります名簿出版につきまして、昭和六十二年に第三版を計画中であります。

過去昭和四十三年度、昭和五十二年度に出版し、昭和六十二年が十年毎の出版計画年度に当たります。

同窓会名簿は会社、地域あるいは支部活動等会員相互の交友を深めるいわば同窓会活動の基本となる意味からすれば、過去の名簿をみた場合決して満足できるものではありませんでした。過去の例は、各クラスの常任幹事、幹事のみなさんを中心会員に住所、勤務先など可能な範囲で調査していただきましたが、なにせ個人の力には限界があり、結果は前述のように不備な点が多く誠に申しわけなく思っております。

今回はこの点を鑑み昭和六十年よりあらゆる角度から検討した結果、コンピュータを利用した業者に委託することに決定し、昭和六十一年度の常任幹事会で承認され

ました。

業者につきましては三社について折衝した結果、これまでの実績、会社業績も含め最も利用価値があると思われる「関西廣済堂」に決定しました。

コンピュータを利用した本システムのあらましは、

往復ハガキによる「会員データ」の作成、編集、印刷、製本から予約者に対しての名簿発送及び入金チェックまでをより迅速に行う総合システムです。

主なメリットとしては、
一、名簿の精度アップと内容の充実が計れる。
二、地域別索引、勤務先別索引を付加することができる。

三、会員データは磁気テープで保管するため変更情報の修正及び新規卒業生の入力だけで完全データとなり、次回以降から割安となる。

四、データから「宛名ラベル」の出力ができる。
十年一昔といいますが、最近の

日本経済の発展による生活圏の拡大と社会情勢の変化等、我々をとりまく環境はめまぐるしく変動し、同窓生の動態も大きく変化しています。これらを正確に調査し、会

員のみなさんにお伝えしなければならぬことを考えれば、このようなコンピュータを利用した名簿作成もやむをえない情報化社会の一つの大きな変革と思われま

す。どうか会員のみなさんには、これらの事情を十分に理解いただきまして、これからの名簿作成に絶大なご協力をお願い申し上げます。

近いうちに往復ハガキによる調査票がお手元に郵送されますので、所定の事項及び名簿希望の有無と広告掲載の希望を記入の上、投函していただきたいと思います。

なお名簿の頒布価格は、常任幹事会、本部役員等最も諸論百出のところでありましたが、一部三〇〇〇円位になると思われます。

いずれにしましても名簿は我々会員が利用するものでありますから、内容をより充実させ、正確な情報源となるよう今から本部役員一同はりきっておりますので、会員各位のご協力を重ねてお願い申し上げます。

或る同窓会

前副会長（館林商工校長）

大沢道保

一口に同窓会と言っても、さまざまな形態がある。最も一般的で集まりのよいものが同級会であり、さらに拡大した学年同窓会であろう。これも小学校、中学校、高校と学校段階でそれぞれに持たれる。どの学校でも組織されている卒業生全体の同窓会は、開校当時の一・二期生が役員を引き受けている所が多い。多忙な合い間に時間を作って集まり、同窓会誌の編集や、名簿の発行など地味な仕事をやっているが、その果す役割は大きく、学校にとっては大へん頼りになる存在である。

さて、私の属する同窓会も、小学校から始まっていくつかあるが、その中に軍隊の同窓会がある。私は旧制中学の五年生の半ばから志願して海軍の学校に入った。それは四十年前の太平洋戦争も末期に近い昭和十九年であった。

そこでは上級生・下級生の三学年が分隊を作って共同生活をしながら軍人魂を錬磨した。わずか一年足らずの間であったが、苦楽を共にした仲なので、忘れ難いものがあり、中でも同期の絆は一層堅



く結ばれている。

昭和二十年八月六日、私は当時広島にほど近い江田島という所にいて、校舎の二階で教官の訓辞を聞いていた。午前八時十五分、原爆「リトルボーイ」が広島上空で炸裂した。その光は室内に満ちみち、その轟音に全員が床に伏した。やがて北の空には美しいピンク色の「きのこ雲」が浮んでいるのを見た。広島までは約八KMの所にいたが幸にも難を逃れた。

こんな経験をした同期の仲間と数年に一度会って、思い出を語り軍歌をうたって、なつかしの一時を過す。今年も、この夏京都まで出掛けたが、戦後も四十年たつと当時の紅顔の美少年（？）達も間もなく還暦を迎えようとしており白髪が目立つ、すでに何人かは此の世を去った。

軍隊の同窓会は未だ日本各地でさまざまな形で毎年のように開かれていく。しかし、これらはやがて自然消滅する運命にある。その時、日本はいま一つ脱皮した姿に変わっているだろう。

今年の同期会も、いつものように往時を語り、軍歌をうたった。また会う日を約して別れたが、同窓会は、いつになっても古くて新しい友達である。

本校のみに価値ある記念品

副会長(教頭)小林季二

「先生、あの古い時計くれませんか。」この学校に着任して間もなくの頃、印刷室の片隅に置かれている大時計(玄関にあったもの)を指さしてねだった卒業生がいた。

使える使えないは別にして「あの時計は、この学校の記念品だからやれないよ。」と断わった。それは前任校での苦い経験がフツと思ひ出されたからであった。前任校は、何年にも亘って何回にも分けて校舎の前面改築をした。そしてその都度、気にもしないまま、遺棄してしまつた記念品があり、収集に心がけた時は後の祭りだつたという苦い経験があるからである。それでも、最終的には創立五十年記念事業の記念会館が出来たとき、骨とう品の価値あるものをはじめ「本校のみに価値ある記念品」を数多く収集し、収納できたので、同窓職員の責をかううじて果たせホツとしたものである。

それでも、先輩同窓諸代から「あの品はどうした」「こういふものがあつたはず」などと言われると、頭を下げるより仕方がなかつた。

本校は、その前任校に比べれば若いし、創立時より現在に至るまで、増築はあつても校舎を壊しての改築がなかつたから、幸いにして「本校のみに価値ある記念品」は散失してしまい、今から心がけて、記念品を残そうとする目とところで備えたいものである。

本校も数年後には全面移転という話がある。その時に備えて骨とう品の価値あるものは当然ながら「本校のみに価値ある記念品」を収集・保存しなければならぬ。

私の席からちょっと見回すだけでも、停電時に使われたと思う手動式サイレンや地図を吊り下げたと思われる棒金具、今どき珍しい裁断器がある。また、創立時から本校と一緒に成長してきた樹木、卒業記念樹も窓の外にみえる。これらの木々も窓の外にみえる。これらの木々も種類、大きさに応じて根回しをして備えなければ記念品の放棄とならざるを得ない。

「本校のみに価値ある記念品」の収集に、関係職員と図って心がけようと思つている。

同窓会役員として

二期生 松原良之

今年は梅雨の明けるのが遅く、例年にくらべ夏が短かく感じました。お盆明け、台風十五号後の一時、残暑はありましたが、幾分過ごしやすかつた様な気がします。皆様如何お過ごしですか。

現在すすめております、太工同窓会活動の大きな柱として、

一、同窓会報の発刊

一、同窓会々員名簿の発刊
等行なっておりますが、太工同窓会報も四十二年の創刊号より、今回の発刊で十六号と号を重ねてまいりました。今では同窓生の貴重な会報となっております。

継続は力なりと今後も会員の協力や関係者の努力に依りずと続け、在校生の進学、就職状況又、活躍するクラブ活動の近況、そして卒業生の便り等、会員皆様のパイプ役となれば幸いかと思います。

一方名簿発刊については、第三版の発刊準備中でありますが、具体的な追跡調査が開始された時には、会員皆様の御協力をよろしくお願い申し上げます。

我が社においても会報、名簿に類似した社内「報」にて、ひさし



ぶりの太工卒業生第二十二期（六〇年度卒）佐藤君が入社されている事がわかり、社内の同窓生に話しをかけ、暖かい新入社員歓迎会を催す事が出来ました。

“会報”のおかげで又新しい同窓生の仲間がふえた。

話しは変わりますが、八月末の夕方学校へ寄り、周囲を一廻り致しました。グラウンドは野球の練習跡と思われ、塁上周辺には水がうたれ、ポプラの大木が風にさらされ、静かな音をたてていました。

又、前庭には卒業生記念樹の泰山木や白蓮等、そしてグラウンド側の校舎側面には、甲子園出場記念の蕨のつるも随分延びていました。

目 標

二十二期卒 金子博一

（富士重工）

私は、まだ卒業して半年しか経っていません。

しかし、今までで一番考えさせられた時だったと思います。

入社して、すぐライン作業に付いて実習をすることになりました。ライン作業は、流れてくる品物を教えられた作業どおりに行なっていればさほど問題はないのです

が、それを行なっていたのでは長続きはしません。

そこで、何か目標をもって、それに向かって行かなくてはいけないのではと考えました。

目標をもって仕事をすると今までやっていただけの単純な作業でも新鮮に見えてきて、作業に意欲が出てきます。

これは、何を行うにしても共通することだと思えます。

私は、小学校・中学校と音楽関係は、全くダメで音楽なんて嫌いだと思って居ました。

ところが、友人に誘われて吹奏学部に入部してしまいました。

最初は、フルートという楽器を渡され、音楽のオの字も知らない私は、こんな女の人の吹く楽器と思いはとんど練習しませんでした。

ところが、3年の先輩が卒業してパートが少なくなったため、アルトサクスを吹くことになって、意欲が出たのですが長続きしませんでした。

しかし、テレビを見ている時、CFでサクスを自由に吹いている人が出ていたのを見て自分も思うままに吹いてみたいなと思いはり目標を立てて、ヘタなりにガンバリました。

そして今は、会社のプラスチック

ドに入り、目標にむかってガンバっています。

偉そうに書いてしまいましたがお同窓会の皆様も自分自身の目標に向かってガンバってください。

卒業して

十九期 麦倉 博

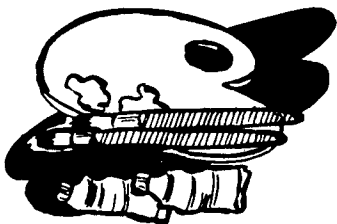
電気科を卒業し、就職して早いもので、あっという間に四年目に突入してしまいました。社会に出て四年目にもなると、会社にも仕事にも慣れ、後輩からも少しは信頼される様になりました。私の勤務している会社は、自己啓発ということに大変、力を入れています。私も自己啓発ということで、ある講習会の講師を頼まれたためやってみることにしました。

講習の内容は、高校の時の、電気の一部を教えることでした。

今迄は、人に教えてもらって、それを覚えるということしかなかったため、どの様にして講習を進めよいか考えたすえ高校の時の授業の様にすすめる事にしました。が、いざ教える立場になると、なかなかうまくいかず、前日に次

の日の内容をみて、自分でわからないものは、メモをして調べておいて、説明するという感じでした。この講習会が終って、次に試験があったのですが、講習会に出た人が試験に合格したと聞いた時は自分で、これまでに試験をうけ、それに合格したことは、何度かありましたが、自分が合格した、うれしさと、また違ったうれしさがあり、なんとも言えない気持ちでした。今回この講習会をやってみて自分なりに自信を持つことができて良かったと思うとともに、教えるということが、大変だということ、改めて実感しました。

これからは、小さなことにも、問題意識を持ち、自分なりに自己啓発に務めて行きたいと思っています。



このころ

(富士重工)六期M 柴田 実

このところ……と言っても、既に何年にもなるが二十才台後半より一年を通して仕事に区切りというものが無くなってしまった感がある。(…と言っても何も趣味もないと言ってるわけではない。)

これは自分一人ではなく世間一般のサラリーマンに多かれ少なかれ見られる現象かも知れない。日本が戦後一貫して急成長を遂げ得たのは今の四十才以上の先輩方の汗によるものである事は誤りのないところであるが、これら先輩には日本人特有の不思議な熱気を帯びた気質を感じる。ちよつと言いつぎになると思うが、ゆつたりと深く人生を味わったり、人間的な諸活動を行うこと等をないがしろにしてまでもガンバッテきてしまった。又、そうせざるを得なかったというような形跡がある。その結果、日本は世界の中で妙に浮き上がってしまったようだ。ところが益々技術開発やら何やらの競争が激烈な為、我々三十才台以下の間も自然とその波の中に、呑み込まれてしまった感がある。毎日強迫的な仕事の渦の中で激闘を繰り

広げる訳であるが、集团的に目的を完遂する為に、非常なまとまりを誇り、個人の意志を押さえ、献身的な立ち廻りをドタドタ演じている自分や回りの人々を見て、ピエロのように感じる一瞬がある。実感としては分らないが、あの戦争に突入する前には、何かこうしたムード、力が一部の悪者に利用され触媒のように作用してしまっただけではないか。

そうならない為にも、今後は、もっと一人一人の人間が、ほんとうの個性を作り上げ、自由な発想で社会を良くしていくことが、特に我々三十才台以下の人間に荷せられた義務であると強く感じる。最後に突然ではありますが、世界の中で真に信頼され生き生きとした社会にする為に、太工生一同頑張ろうではないか。(これがまさしく集团的！ワッハッハッハ)

第一回

太工祭

テーマ、未来に飛翔べ
俺達の夢
来る11月22(土)・23(日)
一般公開

昭和60年度 卒業生 (第22回) 就職事業所

会社名	M	E	C	計	会社名	M	E	C	計	会社名	M	E	C	計	会社名	M	E	C	計
(太田・新田)					玉川 織 維	1			1	群馬ウシオ電機			1	1	アトム化学				1
富士重工業	4	3	2	9	新潟マシサービス	1			1	日本キャンバック			2	2	明和グラビア		1		1
蘇原鉄工	4	2	3	9	(館林・邑楽地区)					日興リカ			1	1	日立エンジニア		1		1
日本発条	1	0	2	3	東京三洋電機	9	11	3	23	五月女鉄工	1		1	1	東芝深谷		1		1
新潟鉄工	2			2	宮津製作所	1		1	2	(伊勢崎・桐生)					ホンダエンジニア		1		1
大隅樹脂			4	4	日本ラジエータ	2	1		3	日本電子機器	1	3	1	5	秩父セメント				1
沢藤電機		2		2	クマポリ			1	1	パイロット万年筆	1			1	スカイアルミ				1
群馬日本電気	4	5		9	凸版印刷			1	1	沖電機			1	1	埼玉県警				1
加藤製作所	2			2	凸版印刷			4	4	桐生機械	1			1	(東京)				
富士エンジニア			1	1	日清			2	2	西工業	1			1	長谷川香料				1
ナカムラヤ			1	1	富士通	1	4	0	5	(前橋・高崎地区)					関電工		1		1
東峰電機			1	1	日東電気			1	1	日産プリンス		1		1	東武鉄道	2			2
明電舎	2	2		4	橋本フォーミング	1			1	東京電力		3		3	凸版包材				1
藤田サービス		1		1	鐘紡群馬工場	1			1	群馬電算センター			1	1	三友金型		1		1
藤田電機		1		1	市光工業			2	2	トヨタオート	2			2	三友金型		1		1
しげる工業			1	1	大阪酸素			1	1	東電管配サービス		1		1	(茨城)				
ヤマト発動機		1		1	味の素			1	1	(栃木県)					積水化成				1
太田消防署			1	1	特電大泉			1	1	岩下石油	1			1					
森伝		1		1	春田産業			1	1	東京三洋電機	1			1					
太田病院	2	1		3	森産			1	1	菊地歯車	1			1					
西濃運輸		1		1	国産			1	1	アキレス				1					
鈴木			1	1	協進			1	1	(埼玉県)					合計	51	48	43	143

昭和60年度 卒業生の進路

進路	希望者数				決定者数				未定者数			
	M	E	C	計	M	E	C	計	M	E	C	計
進学												
大学	6	7	7	20	6	7	7	20	0	0	0	0
短大・高専	0	0	2	2	0	0	1	1	0	0	1	1
各種専修	14	16	12	42	14	16	12	42	0	0	0	0
就職												
学校斡旋	54	53	50	157	54	53	50	157	0	0	0	0
その他	3	3	3	9	3	3	3	9	0	0	0	0
合計	77	79	74	230	77	79	73	229	0	0	1	1

昭和六十年度 卒業生の進路
この年度の進路指導は、大変難しい問題に直面しました。いつもの様に、就職試験を受けるため生徒の応募書類を会社へ送り、ほっと一息という九月の中旬のことです。TVで五ヶ国の蔵相会議(G5)があったと報道されたが、これが今日の円高の発端とは、思いもしなかった。たしかに一次不合格が三十名程出て、前年(約二十名)より増加し、容易ならざることが判った次第です。今後、製造業を中心に、よりきびしい合理化が進み、産業構造の大きな変革が心配されると思われます。

昭和60年度卒業生の進学状況 (合格者数)

大学・短大	人数	専修・専門学校	人数	前橋高等美容学院	人数
足利工業大	3	足利コンピューター学院	3	前橋高等美容学院	1
日本工業大	9	太田職業訓練校	5	前橋商工学校	1
関東学園大	2	群馬自動車整備	2	松下工業	1
埼玉工業大	1	関東自動車工	1	千代田工業	3
東海大	1	青山レーディング	1	ラベルジャーナル	1
日本大	1	日本中央工	4	前橋デザイン	1
山梨学院大	2	中東工	1	白根総合	1
帝京大	1	東本電	2	武蔵野	1
関東短大	1	日本電	4	蔵野	1
群馬工業短大	4(2)	関東東京	1		
前橋市立工業短大	1	関東東京	1		
計	26	埼玉工大	6	計	42

<注> ①日本工大1名を除いて他19名が推薦入学 ②群馬工短大の(2)は就職進学者である。

同窓会々員数

S 6 1 . 3 . 1 現在

卒業回数	卒業年月日	合計
1	昭40. 3. 12	302
2	41. 3. 9	315
3	42. 3. 9	306
4	43. 3. 9	303
5	44. 3. 6	322
6	45. 3. 6	321
7	46. 3. 5	319
8	47. 3. 1	311
9	48. 3. 1	306
10	49. 3. 1	289
11	50. 3. 1	273
12	51. 3. 1	257
13	52. 3. 1	261
14	53. 3. 1	260
15	54. 3. 1	245
16	55. 3. 1	227
17	56. 3. 1	241
18	57. 3. 1	228
19	58. 3. 1	222
20	59. 3. 1	235
21	60. 3. 1	229
22	61. 3. 1	230
合計		6,002

職員異動 昭和六十一年四月
大沢道保教頭 館林商工校長に
小林治太郎先生(工化) 伊工へ
高橋千雄先生(電気) 伊工定へ
阿部光雄先生(理科) 館高へ
米山文雄先生(電気) 伊工へ
横山利行先生(理科) 西邑楽へ
吉田智光先生(数学) 伊工定へ
大沢浩二先生(国語) 退職
森部和行先生(工化) 退職

次の先生方は新任の先生です。
小林季二教頭 桐工より
佐藤正孝先生(理科) 館女より
中島正美先生(理科) 新田より
不破義美先生(工化) 新任
井田昌利先生(数学) 新任
飯塚貴夫先生(電気) 新任
真田郁夫先生(電気) 新任
大坪 太先生(国語) 新任

学校だより

編集後記

大変遅くなりましたが、皆様方の御協力により、会報16号を発行することができました。
また、投稿を頂いた、諸先生方をはじめとし、会員皆様に紙面を借りまして、厚く御礼申し上げます。
尚、今年度、常任委員会で、第3回同窓会名簿の出版計画が承認されました。
今回は、コンピューターを利用した業者に委託する計画であり、内容についても、かなり充実し、なおかつ正確な情報源として、同窓会員の皆様が利用できるものと、役員一同はりきっておる幸いです。
(木村 記)

